

今回は 夏休みに行われた関ジモト大学 の報告（その11）です。

## ◇ オンラインセミナー「関ジモト大学2023 online」

今年度は、昨年度に引き続きオンラインセミナーを実施しました。関市で活躍する「せき・まちづくりNPOぶうめらん」が主催する「関ジモト大学 online」の場をお借りして、関市内の12企業と各企業のSDGsに関わる取り組みについての話を聞き、生徒が意見交換を行いました。

## ◇ 企業紹介

### 【(株)大野ナイフ製作所】

大正5年(1916年)に創業以来、培ってきた様々な伝統技術と職人技の蓄積に最先端のテクノロジーを融合させ、最高級の美術工芸品ともいえる「魅せる包丁」を開発・製造、主に欧米の富裕層向けを狙った包丁を製造。



【HP】 <http://l.onoknife.com/top/>

関連する 主な SDGs			
--------------------	---	---	---

## ◇ 関ジモト大学を受けて 生徒の感想

・大野ナイフさんはIOTを活用し快適指数や生産具合の見える化を実現して、社員の満足度やモチベーションを保てるようにしつつ、生産量アップを実現しているところがすごいと思ったし、印象に残りました。また、SDGsにも力を入れて、様々な方法で活動しているところにとっても驚きました。また、これらのことがこれからの社会で重要で求められていることだと感じました。

・刃物を扱う会社でしたが色々な視点から取り組んでいることがあったのでとても面白いお話後聞けたと思いました。SDGsもたくさんの項目に色々なほうほうで取り組んでいて、さらに他の項目も取り組もうとする姿勢にしてはすごさを感じました。お話を聞いていると、とても働きやすそうな会社でした。IoTを初めて聞きましたが、それによって職場が良い雰囲気になるんだなと感じました。

・刃物は関市で有名な工芸品のひとつですが、刃物ひとつに100工程以上かかるということは知らなかったし、他にも世界でも人気になっていることを聞いて自分が住む地域の文化が海を越えて親しまれていることに感動したと共に誇りに思いました。今回の講義で学んだことを自分の研究にも活かしていきたいし、将来どんな職業に就くかは決めていませんがふ

るさとの文化や財産を世界に伝えられるような仕事をしてみたいと思いました。

・自社の利益のみを考えて運営するのではなく、近年の大きな課題である女性の雇用問題やSDGsにも配慮して運営している大野ナイフ製作所さんは、現在だけでなく地球の未来も大切に思い活動しているととても素晴らしい会社だと思いました。私も、身近なところからSDGsに貢献出来る取り組みを進めていきたいと改めて思いました。

・高級ナイフを作るために100以上の工程をしなくては行けなく、複雑な作業や設備に大きな費用がかかると思うのに、太陽光を使って資源を大事にしたり、社員のために運動部を発足させたり、働きやすい職場を作っていたりと、SDGsの取り組みを小さなことから大きなことまでされていて、とても驚き、凄いと思いました。これを聞いて、SDGsは小さなことをコツコツやっていく事、これが大事なんだと気づきました。本日はありがとうございました。

・大野ナイフさんの刃物を持っていますが、とても手の込んだ製造をしていて驚きました。最新の技術を使ったSDGsの取り組みも行っていてよかったです。小さな会社でのまちづくりは大変だと思うけど、自分にもできる取り組みがあったら進んで行っていけば大きな対策となっていくのではないかなと思いました。素敵な講話をありがとうございました。

・1つのナイフを作るのに100以上の工程が必要というお話を聞いてすごく驚きました。見た目的に小さいものの部類に入ると思うけどそれでも多くの工程を踏んで作られているのがすごいなと思いました。また機会などを取り入れることで残業を減らすという働きやすい職場を作ると同時に現在問題になっている第一次産業の人口減少、後継者不足の問題の解決に取り組んでいると知りすごいなと思いました。

・世界的にも有名な刃物の産地であると誇りを持ち、一つ一つの作業工程を丁寧に言い、包丁を作っていると知り驚きました。精密なロボットの導入や部署ごとの「見える化」、多くのSDGsの取り組みなど、現代の製造業界に適応した、大野ナイフさんならではの工夫がよく分かりました。私も将来包丁を買う時は、ぜひ関市産のものを購入したいです。本日はありがとうございました。

・初めて聞いた名前の会社さんでしたが、独特の個性を持つ会社で、はなしをきくのが面白かった。SDGsの取り組みでは、小さなことをたくさんやっていて、自分たちができることをやるスタイルでこれからの社会を作るために必要な考え方だなと思った。私も自分でできることを率先してやっていきたいと思った。また、働く人の環境を保障する仕組みが働きたいなと思うような会社でとても素敵だと思った。

・本日は、貴重な機会を提供していただきありがとうございました。私は、本日の講演で、大野ナイフ製作所様は、企業の業績の向上と、従業員の方々への配慮を両立しているという点が印象に残りました。まず、企業の売り上げを向上するという点において、大野ナイフ製作所様は、国内向けの製品で、薄利多売の海外企業と価格競争するのではなく、関市の伝統を生かした高品質な製品を欧米に輸出するという転換を数十年前になさったということ

が、とても先見的で素晴らしいと思いました。また、生産性を向上するために、IOTの導入に積極的であるということが、先進的で感銘を受けました。そして、利益を従業員の方々に分配したり、残業を減らしたりすることで労働環境を改善することが可能になっているところは、とても勉強になると感じました。今回の講演で、このように大野ナイフ製作所様は関市の企業として様々な尽力をなさっているということがわかりました。

・関の伝統文化である刃物をこれから将来のために受け継いでいくためにその会社内での仕事の環境は大切だと思います。熱中症などにならないように気をつけて仕事を頑張ってもらいたいです。それにSDGsという目標に向けて積極的にどのように取り組んでいくのかその方法が詳しく説明されておりすばらしいと感じました。これからも関市のため頑張ってもらいたいです。

・包丁製造の話を通じて、日常的な道具である包丁が実は高度な技術と工程が関わる製品であることを再認識しました。職人の手仕事や工夫が、私たちの生活に品質と価値をもたらしていることに感謝の気持ちを抱きました。

・会社に部活があることは本当に少ないと思うからすごいなと思いました。会社員の人など社会人になると運動はできなくなるからそこで学生の時と同じようにできるのはすごいいと思います。大野ナイフ製作所にしかできない模様があるとみんなそれを求めて買うし愛着が湧くと思いました。百以上の工程を不良品が出ないように丁寧に一つ一つ作っていることがとても素晴らしいです。貴重な時間をありがとうございました。

・包丁を一本作るために100もの工程があってそれを大野ナイフ製作所さんは自社ですべてできるようにしていることに驚きました。また、中国などから安い包丁が大量に流れていく中で安さで勝負するのではなく、品質で戦っていることに関市の包丁に対する誇りが感じられました。また、これまでは足りない何かがあったら全ての部署で残業ということだったのにIoTによって残業が減らせて、生産量も増やしているというのでとてもすごいことだと思いました。

・大野ナイフ製作所の話聞いて、包丁が作られる過程や、世界との関わりを知ることができてよかったです。また、IoTを使って見える化をすることで、残業を減らし生産力を上げて作業者のレベルを上げたりモチベーションを上げたりしているとわかりました。見える化は、作業場の環境を良くするためにも使われているとわかりました。SDGsでは、大きな目標に向け・会社ではどのようなことを行っているかわかりました。良い機会を提供していただきありがとうございました。

・大野ナイフ製作所という企業を今回初めて知りました。刃物を作っているということで日本にしか販売していないと思っていたのでアメリカがほとんどということを知って驚きました。また関市がなぜ刃物が有名なのかもしれないので良かったです。IOTを進めたことによって、生産量がupしたり、残業も削減することができた上に、社内のモチベーションもあげることが出来ていて素晴らしい会社だなと思いました。

・この企業さんの名前は知っていたけどこのように講座を聞いたのは初めてでした。関市の中小企業がSDGsにここまで貢献していると知り、とても驚きました。特にデータ化、見える化することによる効率化はとても関心を持ちました。IoTの導入やロボット化などで会社の生産量向上や効率化だけでなく社員のことを考える大野ナイフさんの話は聞いていて、とても学ぶことが出来たと感じました。講座、ありがとうございました。

・IOTによって働き方改革を行なって、短時間でより多くの物を生産できる生産の効率化を進めたところがすごいと思いました。より企業の利益を上げるだけではなく、従業員の残業時間を少なくすることに成功し、多くの人が働きやすくなっているところがすごいと思いました。また、自分の中で刃物というと昔ながらの伝統という感じがあったけれど昔からの技術と現代のテクノロジーを組み合わせる新しい商品を作り出しているところがすごいとおもいました。

・大野ナイフ製作所さんの姿勢はとても真面目で丁寧なものだと感じました。中小企業の取り組みでSDGsを達成するのは困難だというお話も、SDGsという言葉が生まれる前から取り組んでこられた大野ナイフ製作所さんだからこその思いなのだと思います。これまで規模の大きいSDGsの2030年までの達成という目標には、届かないのではないかと諦めた思いもありましたが、きょうのお話から個人の取り組みがなければ達成できるものもできないのではないかと感じるようになりました。計画・実行・評価・改善を繰り返し、身の回りのことから取り組み続けたいと思います。